

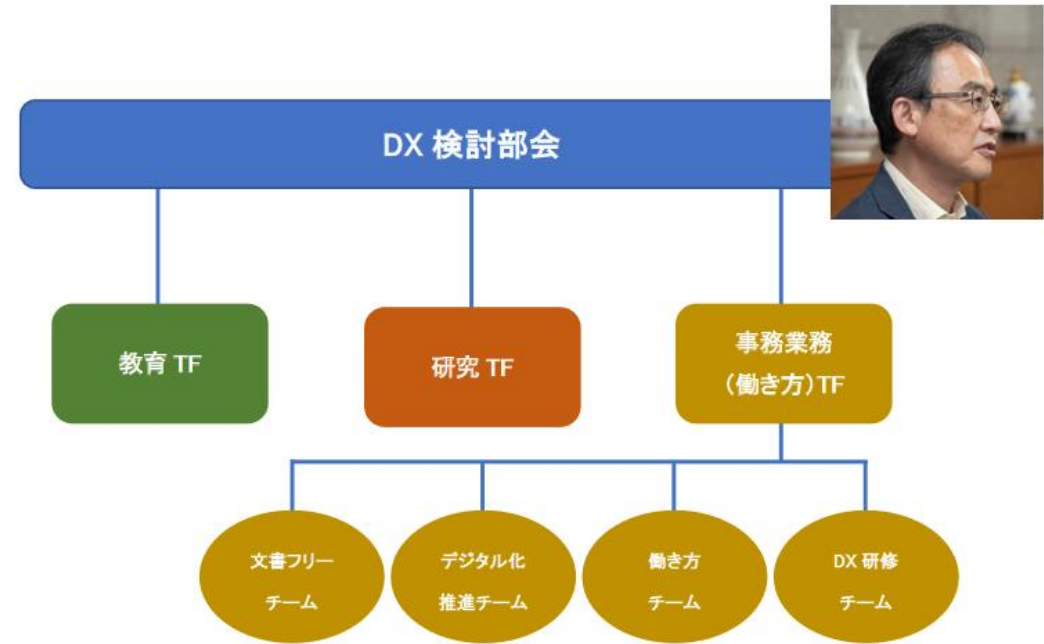


北大DX-SD研修 フィードバックから見る 事務職員の業務DXマインド

要旨

- 北海道大学において全職員1,184名を対象にオンデマンド型「DX-SD研修」を実施した
 - ✓ 受講者数はこのべ3,865名、平均受講率は約65%であった
- 全5回20コマ構成、コンテンツはおもにインタビュー動画とした
 - ✓ 学内から総長・理事・管理職によるメッセージ等、および先行事例
 - ✓ 学外から道内企業・教育機関・自治体のCDOによる変革の考え方等
- フィードバックからは職員の前向きな姿勢と不安要素を読み取ることができた
 - ✓ 「DXに期待する」「自らの行動で変化を生み出したい」と回答した割合は約80%
 - ✓ コミュニケーションとインプットのコスト(労力)を
職員個々に引き受けさせない進め方とすることで積極的参加を促せる可能性

I DX-SD研修企画



- 2020年度に「未来戦略本部 DX検討部会 事務業務(働き方)タスクフォース」が発足
- 2021年4月-2022年3月の期間「DX研修チーム」が置かれた
- 同10月～翌3月までの約半年で全5回20コマ構成のオンデマンド研修を1,184名を対象に実施

I DX-SD研修企画

令和3年10月1日改訂

事務業務（働き方）に関するDX-SD研修要項

1. 研修の名称

事務業務（働き方）に関するDX-SD（Hokkaido University Digital Transformation Staff Development）研修

※DXとは「デジタルトランスフォーメーション」の略称です

2. 主催

未来戦略本部DX検討部会事務業務（働き方）タスクフォースDX研修チーム

3. 目的

「DXとは何か」を理解し、組織全体でDXによる働き方の改善を受け入れ推進していく素地づくりを目的とします。

※DX推進に有用な技能習得やスペシャリスト育成のための講座ではありません（研修のねらい）

①大学の現状と課題を理解する

②学外のDX事例を理解する

③DXによる課題解決を考えられるようになる

4. 受講対象者

事務職員（図書含む）、技術職員（対象者以外の受講を妨げるものではありません）

● ねらい

- ✓ 「DXとは何か」を理解し、組織全体でDXによる働き方の改善を受け入れ推進していく素地づくりを目的とする
- ✓ DX推進に有用な技能習得やスペシャリスト育成のための講座ではない

Ⅱ 研修コンテンツ

開始日	回数	受講者数	受講率(%)
10/5	第一回	863	72.9
10/28	第二回	794	67.1
11/15	第三回	737	62.2
12/16	第四回 (+4.5回)	881	74.4
2/18	第五回	590	49.8
-	計	3,865	65.3

- 主たるコンテンツはオンデマンド動画
- 1コマ約15分前後のものを20コマ
- 一部任意選択とし、全編で15～17本の動画視聴
- 受講数はこのべ3,865名(平均773名、受講率約65%) ※ただし特別追加回を第四回に含む



- コンテンツはおもにインタビュー動画
 - ✓ 学内から総長・理事・管理職によるメッセージ等、および先行事例
 - ✓ 学外から道内企業・教育機関・自治体のCDOによる変革の考え方等
- 受講者がDXについて主体的に考えるためのヒントを得る「マインド・トランスフォーメーション」を主眼に構成



※各動画イメージは画面投影のみとさせていただきます

Ⅱ 研修コンテンツ

いいね！Hokudai職員
北海道大学職員による業務改革事例や日々の仕事に役立つ情報を紹介します。

2022.3.31 事務業務（働き方）タスクフォース DX研修チームによる更新を終了しました
2021.10.5 [DX-SD研修に関連する情報を集めたポータルページはこちら](#)

16.業務自動化（2）
プログラミング未経験からのスタートで業務自動化に挑戦している若手事務職員を紹介します。
病院事務部経営企画課
予算経理担当 係員 高岡 悟

15.1on1ミーティング
より良いチーム作りを目指し、「1on1ミーティング」という新たな手法を取り入れた職員を紹介します。
北方生物圏フィールド科学センター
事務部 森林園北事務担当
係長 関藤 元太

14.SSD換装
業務効率化とデータ保護のため、事務部全体でリースPCのSSD換装を行った取り組みを紹介します。
メディア・観光学事務部

13.電子決裁
先行してデスクネットネオによる電子決裁を導入した2部署の取り組みとマニュアルを紹介します。
両館キャンパス事務部・国際部

ワークフロー

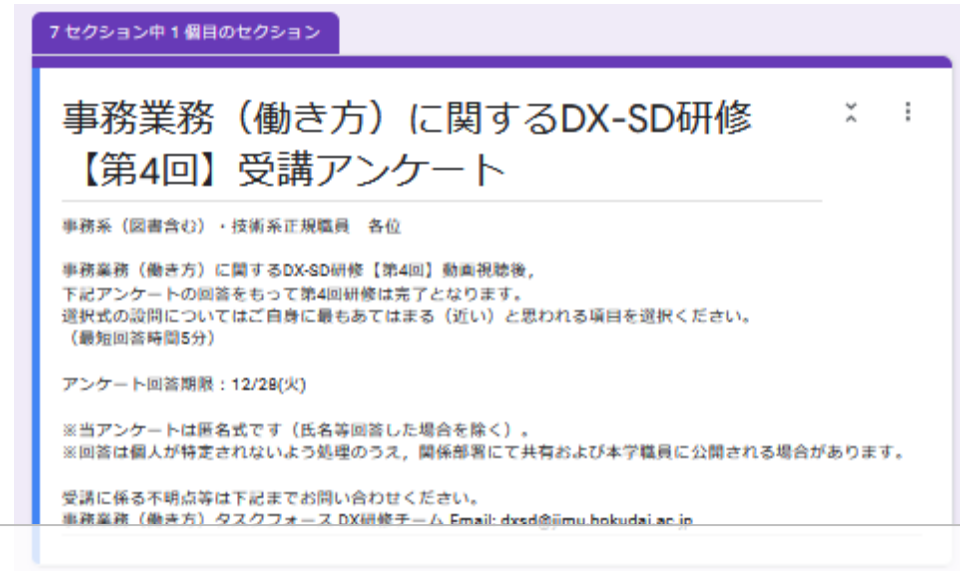
- テキストメディアも開設
- 研修資料や関連する外部リンク等をまとめた「ポータルサイト」
- 学内の個々の取り組みを紹介する「いいね！Hokudai職員」
 - ✓ 16記事を公開、計7,000以上のアクセス

Ⅲ フィードバック



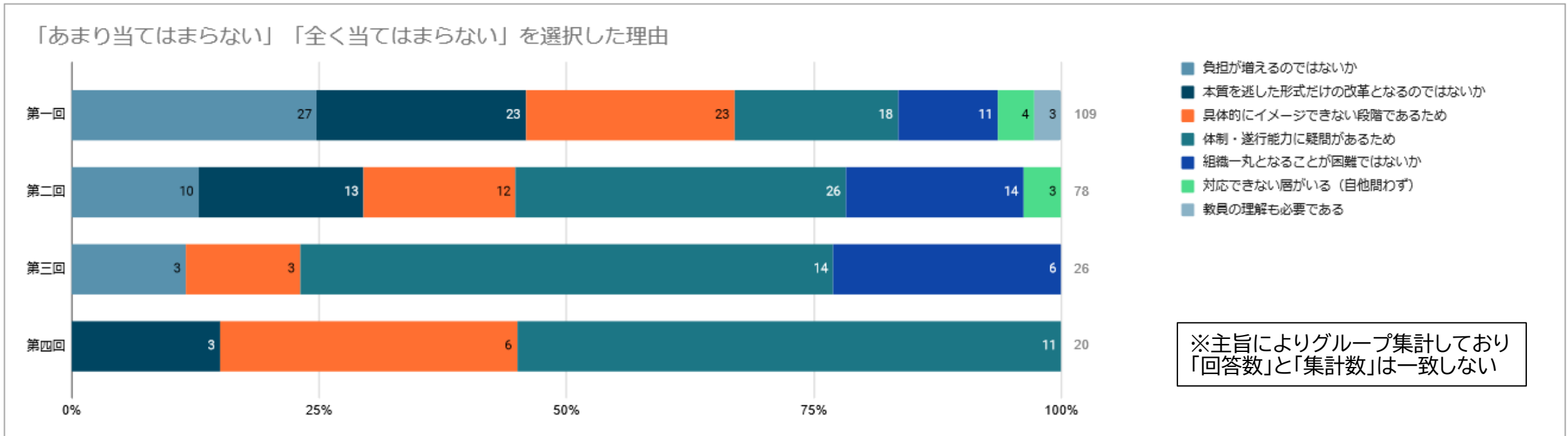
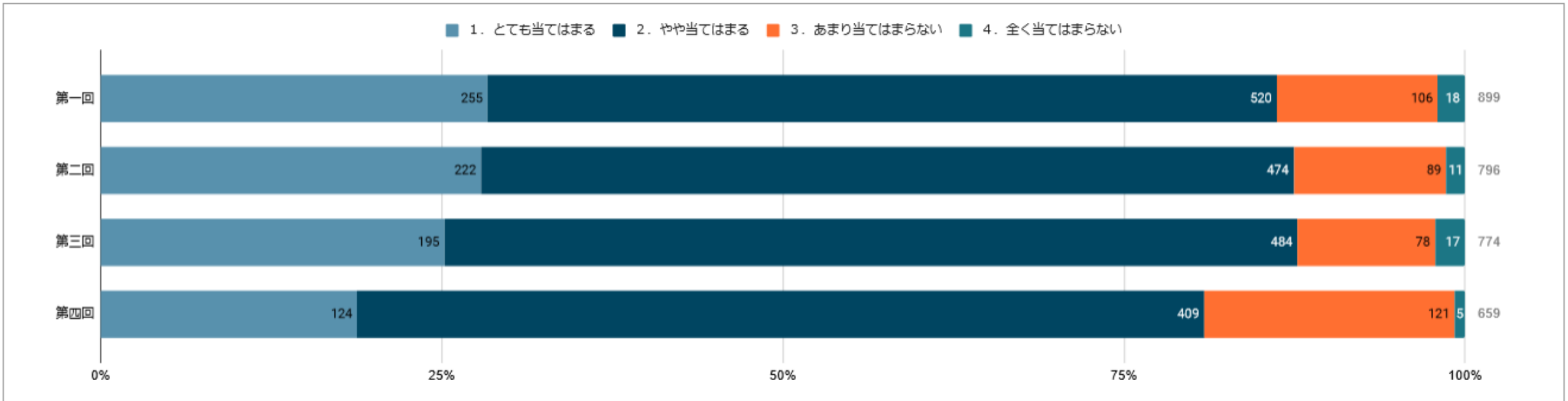
- 複数のフィードバックチャンネルを開設
- アンケート(のべ回答数3,453件)、メーリングリスト、グループウェア電子掲示板
- Teams意見交換ルーム
 - ✓ 140人以上の参加、400以上のpost

Ⅲ フィードバック

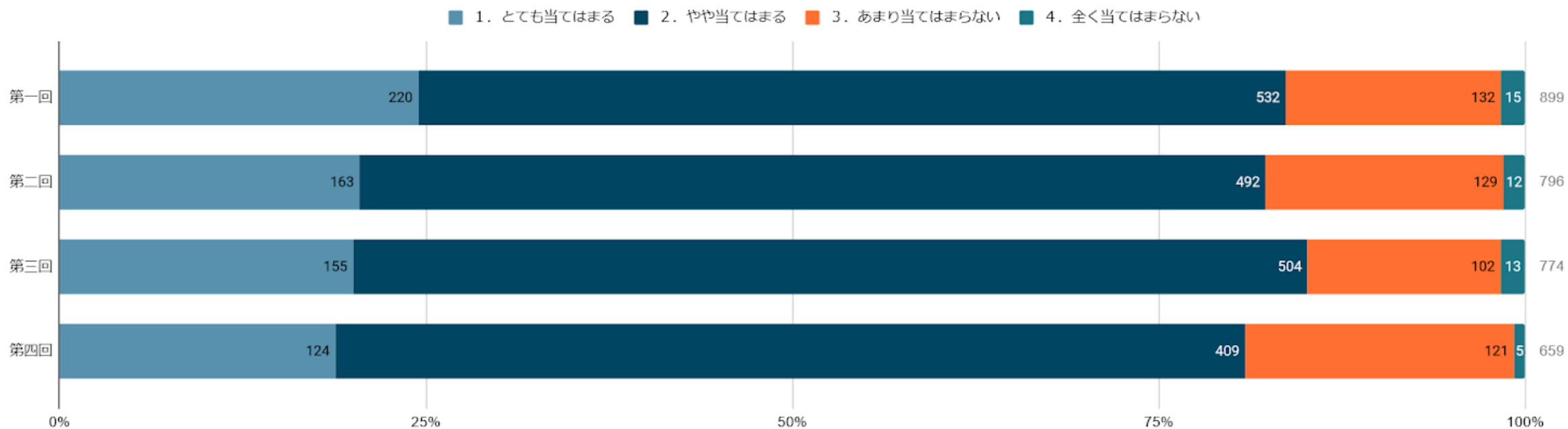


- アンケート共通設問から3項目
 - ✓ 本学でDXが行われることに期待感があり楽しみであるか？「そうではない」理由
 - ✓ 研修での学習を生かし、自らの行動で業務に変化を生み出したいか？
 - ✓ DXに繋がると感じる意見や提案，DXを推進するうえで課題と思うことを記述してください
- 第1～4回回答分3,128件、自由記述は主旨により機械的にグループ集計

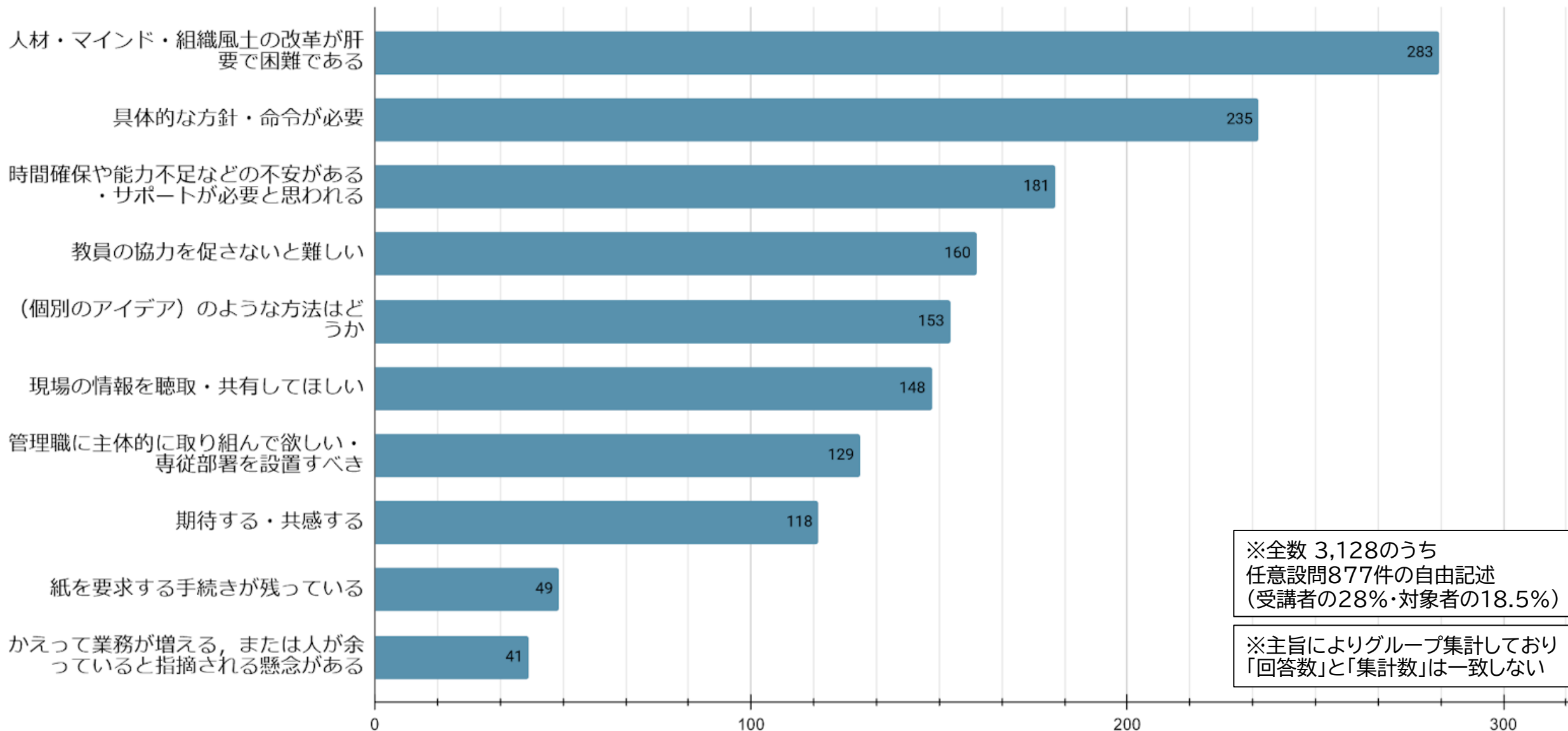
Q. 本学でDXが行われることに期待感があり楽しみである (北大DX-SD研修アンケート回答より集計)



Q. 研修での学習を生かし，自らの行動で業務に変化を生み出したい（北大DX-SD研修アンケート回答より集計）



Q. DXに繋がると感じる意見や提案, DXを推進するうえで課題と思うこと (北大DX-SD研修アンケート回答より集計)



IV 事務職員のマインド（考察）

	考え方	行動
期待	高度化・効率化, 組織が変わろうと している	ステークホルダー への還元（含自身）, 変革への参画
不安	体制・権限, 範囲・手順・計画	時間・労力と評価, 職種・部署の連携

<不安要素>

- ✓ 本務が優先上位であり時間がない
- ✓ 上長・同僚の理解・評価が伴わない
- ✓ 職種・部署により価値観が異なる
- ✓ 業務の共通性が低い(多様化)
- ✓ デジタル知識・技能の不足

<対応するための方向性>

- ✓ 行動の根拠となる計画や指示
- ✓ 価値観・知識の標準化

● コミュニケーションとインプットのコストを職員個々に引き受けさせない変革構造が重要か

2022年5月13日
大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関する
サイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」【第50回】

清重 周太郎 (きよしげ しゅうたろう)

北海道大学 未来戦略本部 DX検討部会 事務業務(働き方)タスクフォース DX研修チーム



北大DX-SD研修フィードバックから見る
事務職員の業務DXマインド